

法話概略【自分の『色』を観察してみましょう】

御仏華に様々な色の華が使われていますが、『青い華は青い光を放ち、黄色の華は黄色の光、赤い華は赤い光、白い華は白い光…』というように、華は純粋にその色で咲きそのまま散っていきます。これを時に、人の性格に喩えて言うわけですが、例えば青であれば「落ち着いて安心感の持てる人」、黄色は「明るく笑顔の人」、赤は「情熱的、燃えている人」、白は「純真無垢な人」などと言えるでしょうか。

しかし、もう少し考えてみますと、この様々な色は、私たち一人ひとりの中にある色とも言えます。明るい気持ちの時もあれば、落ち着いて静かにしたい時もある、勝負に燃える気持ちの時もあれば、心が洗われて純真になる時もある。どんな色もあって、例えば、黒色で喩えられるような暗い気持ちや悪い感情のどす黒い気持ち(黒色さん、ごめんなさい…)になってしまう事だってあります。そんな黒色の気持ちを抱えてしまう時、“あの事さえなければこんな気持ちにならなかったのに…”とか“あの人が居なければここは平和なのに…”という外の要因に目を向けた考えになりがちなのが私たちが居ます。

少し視点を変えますが、カラーコピーのインクを観てみますと、イエロー、マゼンタ(赤紫)、シアン(水色に近い青緑)、ブラックの4色しか入っていない事は御存知でしょうか？ブラック以外の3色の組み合わせ方によって様々な色を創り出しています。その3色の混ぜ合わせ次第では、黒に近い焦げ茶色にまで変化します。

このように、爽やかな気持ちの色も、暗い気持ちの色も、私の中にある心の色が混ざり合って作られる色であり、例えば、普段から浮き沈みしている私の心の色が沈んでいるタイミングで、外の色(縁)が重なり科学変化が生じて、元々私の中に存在している色たち(因)と混ざり合って暗い色ができてしまう事だってある。それらの色たちは、『因縁』の結果とも言えるでしょう。

私の中の心の色は、どんな色にも変化する。「一人十色(いちにんといろ)」ある自分の色は、キレイな色も、好きじゃない色も見えてくるけれど、それぞれの色をしっかり認め知って自分の色として受け取り、そこから今日の色を創り出していけたら…。そんな心に向き合う場が、実はこの朝礼、仏間に座るということでもあります。ご自宅の仏間でもそうです。濁りがちな心の色を毎日そこに座ってフレッシュな色に戻す場所。フレッシュに戻らない時は、その日はその色の自分をしっかり受け止め、少しでもやさしき色に調合する場所・時間でもあるのです。

今日のスタートが、皆さんお一人おひとりのよき調和の時間になっていきますように。

今月もよろしくお願ひします。

その他連絡事項

- ① 光寿苑にアルコールチェッカーが届きました。光寿苑車両を運転する職員は、この対象者となります。準備が出来次第、開始致します。また、冬が近づいてきました。安全運転で出退勤していきましょう。
- ② ○○○(ユニット名)で、熱発や咳の風邪が流行っています。軽症の方も含めると、16名のお年寄りに症状があり、長引いています。コロナやインフルエンザの検査等を実施しています(こちらは陰性)。職員も感染に十分注意して頂きながら、対応をお願い致します。
- ③ 先ほどの報告の通り、風邪の流行が○○○(ユニット名)のみではありますが、治まりません。医務職員が朝早くから夜遅くまで超勤対応でがんばってくれています。ヘルプできる事は部署を超えて行っていきたくと思いますし、お互い労いの言葉を掛け合いながら、この難局を乗り切っていきましょう。

【講話、③ = 光寿会理事長 ① = 総括課長 ② = 看護師】